

こどもの病気対策法⑪⑦

－麻疹(はしか)－

大分大学客員教授 是 松 聖 悟

約1年かけて津久見市の子どものいるご家庭で活用できるよう、夜間のこどもの病気対策フローチャートの改訂をしてきました。ほぼ一段落しました。そこでこれから、それぞれの病気についてのご説明を始めます。まずは、今、国内での流行が心配な麻疹(はしか)です。

麻疹は、高熱、咳、くしゃみなどの症状について、いったん、熱が下がるものの、再び高熱となったときに発疹が出る感染症です。空気感染するので、例えばドーム球場の中で端から端までも感染させます。通常は1週間程度で回復しますが、1,000人に1人の頻度で脳炎を併発し、死亡するか脳の後遺症を残すことになります。また、10万人に1人は発症後7年くらいかけてゆっくり脳炎を発症し、この場合の死亡率は90%以上です。

麻疹には治療法がなく、唯一の予防法はワクチンです。日本では、2006年より麻疹風しん(MR)混合ワクチンとして、1歳時に1回目、

小学校入学前年度に2回目の接種がされています。また、時を同じくして、5年間限定で中学1年生、高校3年生にも2回目の接種がなされました。その期間に予防接種していた人が発症する可能性は低いです。念のためとして抗体検査をしている場合もあるとの話を聞くこともありませんが、抗体がついていなくても、別の免疫がついている場合がありますので、2回接種した人に抗体検査や追加接種は不要です。しかし、2回の予防接種をしなかった人や、それ以前の世代である20～50歳代の人は、かかったことがなく予防接種も不十分で、最近の国内の発症者の大多数を占めています。

子どもが最優先ですが、子育て世代の方々はご自分の母子手帳をご確認ください。かかっておらず1回しか予防接種をしていない、もしくは予防接種の記録が残っていないのであれば、有料にはなりませんが、せめて1回の予防接種をご検討ください。

麻疹(はしか)の5つのポイント

- ・ 高熱、咳、くしゃみ、発疹がでる。
- ・ 空気感染するので予防が難しい。
- ・ 治療薬はない。
- ・ 1,000人に1人は急性脳炎を併発する。
- ・ 2回の予防接種で発症を防げる。

